

## 私と門川高校

門川高等学校 二年 染田 美津妃

門川町は自然豊かで、桃源郷岬では梅雨の時期になるとアジサイが咲き誇り、枇杷島では十二月末から五月中旬の間カンムリウミスズメの姿が見られます。また、登校中にはすれ違った地域の人がよく挨拶をして下さり、元気を毎朝貰っています。

そんな門川町で育った私は、将来管理栄養士になりたいと考えています。幼い頃から「管理栄養士になりたかったのか」と言われるとそうではありません。元々、管理栄養士という職を知ったのは私が中学生の頃でした。

管理栄養士になりたいと考えるようになる前には、命を救う職に就職したいと考えていました。そのため、獣医や医師、看護師など医療に関する職になりたがっていました。

しかし、私は自分以外の血液や怪我などを直視できません。自分の怪我であれば痛み等分かりますが、自分以外の人や動物の怪我となると、どれほどの痛みなのか想像することはできませんが、実際のその痛みを感じ理解することはできません。そのせいか、自分以外の怪我等を直視することはできません。そのせいか、自分以外の怪我等を直視すること「自分の想像している痛みよりももっと酷いのではないかなど」と考えてしまい気分が悪くなってしまうのです。

そういった理由から、私は医療に関する職には向いていないと考えるようになり、同時に将来の夢を失いました。

それから日が経ち中学三年生になった頃、同学年のほとんどの人が将来の夢を実現させるため進学先を決め勉強に励んでいる中で、私は将来自分は何をしたいのか分から

ないまま日々を過ごしていました。

するとある日、父と将来の夢の話になり、私は父に将来の夢がないことを話しました。父は少し悩んでいるような素振りを見ると「管理栄養士はどうだろう」と言いました。私は聞いたことのない名であったため父にどんな職業であるのか話を聞きました。父の話を聞いてから、管理栄養士など食品に関する職業であれば自分にも向いていると考えるようになりました。

しかし、考えるようになっただけであり何とと言う名前の職業に将来就職することを目指すのかは何も決まっていま

せんでした。そのため、私は進学先を決めなければならぬ頃とても悩んでいました。

そんなときに門川高校のパンフレットを見て、総合学科という学科があることを知ったと同時に進学先が決まりました。

総合学科では一年生の前期は自分探し、一年生の後期からは前期で行った自分探しを元に四つの系列から自分にあつた系列を選択し、自分の選択した系列に関する授業を受けることができます。私は、入学後に系列を選択するため自分探しの時間があることにとても魅力を感じ、門川高校に進学を希望しました。

入学後、自分探しの時間で私は食に関する職業に向いているのではないかとという考えが日に日に強くなっていきま

した。お菓子作りが趣味であることや、自分の作ったものを食べてもらった際の美味しいと笑顔になってもらえた嬉しさを

感じるなどから、その考えは強くなっていったのです。その結果私は、食品加工系列という食品に関することを

学んでいく系列を選択しました。

また、食に関する職業に将来就職したいという思いも強まり、管理栄養士を目指そうといっしょか考えるようになりました。特に大きな理由としては、管理栄養士は様々な場所での活躍していますがその内の一つに病院などの医療機関があることです。直接的に命を救うことはできませんが、食で命を支えることはできると考えました。

しかし、管理栄養士になるためには資格が必要です。そのため、高校卒業後私は南九州大学宮崎キャンパスへの進学を考えています。私立大学なので入学料や授業料が高いため、親の負担を少しでも減らそうと大学が行っている奨学金制度を調べるなどしています。

また、大学進学はそう容易くないと個人的に思っている為、門川高校では普段成績を上位で保つことや、体育の授業では私は運動が苦手なのですがそれを理由に怠けないうようにしたり、道具の準備等は私でもできるため積極的に行うようにしたり、テストでは苦手な教科を作らず点数にあまり片寄りのないように気をつけています。他にも学校生活の中で、勉強は得意な方なので分からない人に教え合っている時間だけでなく、昼休み等も利用し教えるようにしたり、プリントやテストの最後に感想を書く欄がある場合は、時間がある限り文を書き続けるようにしたり、ボランティア活動や授業中の発表などを積極的に取り組んだり、大きな声を出すべき時には恥ずかしながらできるだけ大声を出すように心がけたりと様々なことを頑張っています。

今後も努力を惜しまず地域の方々にも応援されるよう、夢に向かって頑張っていきたいと思えます。